

鉈屋町 町内会だより

十文字稲荷神社 年越祭

今年の大晦日は、十文字稲荷神社の年越祭に伺いました。令和4年もあと数十分という頃、神社のお世話をしている当番の方々が集ってきます。お供え物をして、参拝すると、正面の扉を開けて、新年を迎えるのを待ちます。



不定期発行
発行者
鉈屋町町内会
編集/文責/撮影
桂 汎用工房
脇田 桂一郎
印刷
小松総合印刷
株式会社



0時となり、年が明けました。近所の方が家族で初詣にいらっしやいます。令和5年の始まりです。今年の正月は雪も少なく、おだやかな日が続きました。皆様にとっても良い年であるように、お祈り申し上げます。



消防団第2分団 挨拶回りとお出初式

1月3日、消防団第2分団では、日頃お世話になっている方々への挨拶回りを行いました。



神子田・茶畑・大慈寺町・南大橋・鉈屋町と管轄している地域を、徒歩で回ります。



そして1月8日には、恒例の消防出初式が行われました。



今年も火災防止に、皆様の協力をお願い申し上げます。



第2会場の大通でのパレードでは、大勢の方が沿道に集まっております。

上方講師、再び盛岡へ

昨年8月に来盛し、町内会だより58号でもご紹介した上方講師、旭堂 南湖(きよくどう なんこ)さんと、旭堂 一海(きよくどう いつかい)さんが、盛岡を舞台とした新作講談を携えて、再びやってまいりました。



1月10日には、大慈清水御休み処で講談会を行いました。この時は一海さんが、原敬の若き日を題材にした新作講談を披露しました。

大慈寺小学校では1月13日、5年生の児童28人による地域学習の発表会があり、その成果を講談に仕立てて、お二人の前で発表しました。



地域の歴史・文化などを調べて、それをもとに台本を作り、一席づつグループに分かれて語ります。鉾屋町の由来、青龍水、原敬や米内光政などなど、様々な話題が続きます。



昨年、大慈寺小学校で講談の体験授業を行った南湖さんですが、児童たちの発表にいたく感心されておりました。

この後、一海さん、南湖さんの講談が一席づつ語られました。

この日は岩手日報とIBCの取材も入り、発表の様子は1月14日の岩手日報に掲載、また1月17日のIBCニュースエコーで放送されました。

そして1月14日、もりおか町家物語館、浜藤ホールでの講演会です。開場と同時にたくさんのお客さんが入り、またたく間に満席に。



南湖さんの新作講演は、南部藩士、相馬大作の母を語るものでした。



昨年の来盛経験から、話のあちこちに盛岡にちなむ言葉を散りばめて、笑いを誘いつつ会場を巻き込んでいきます。お客さんにも「慣れ」がでてきたようで、最後はすっかり南湖さんのリズムに乗っているようでした。



「大阪でスノーシューズを買ってきたのに、盛岡に来たら雪がない」と嘆いておられた南湖さん、また冬にお越しください。南湖さん、一海さん、お二人とも、ありがとうございました。

佐々木龍大 原藍染展

佐々木龍大さんの個展「原藍染展」が、令和4年12月の3日から、25日にかけて開催されました。

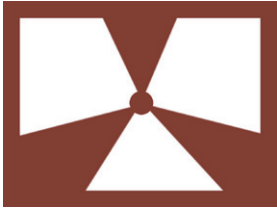
今回の新作「初雪」



これは「追っかけ」という型染の技法で染められたものなのです。

この技法に関するお話が大変興味深かったので、私の理解できた範囲で、ご紹介したいと思います。

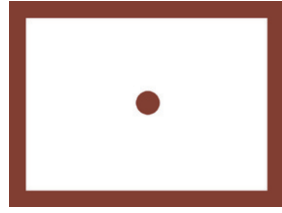
型紙1



型紙2



そこで、どうするかというと、点の部分をつなげた2種類の型紙を用意します。



型紙で点を作ろうとすると、外枠と点をつなぐ部分がなく、点の固定がうまくいきません。

これは点のところだけ糊をつけず、その部分が染まるようにすればよいのですが、型紙で行うのが少し難しいのです。

白地に藍の点を染めるにはどうしたらいいか？



ここで活躍するのが、以前ご紹介した「長板」です。

理屈は分かりませんが、裏表と計4回、ずれないように塗り重ねる必要があります。大変な作業です。



塗り重ねることによって、点の部分だけが残り、点だけが染まります。

型紙1で塗った糊

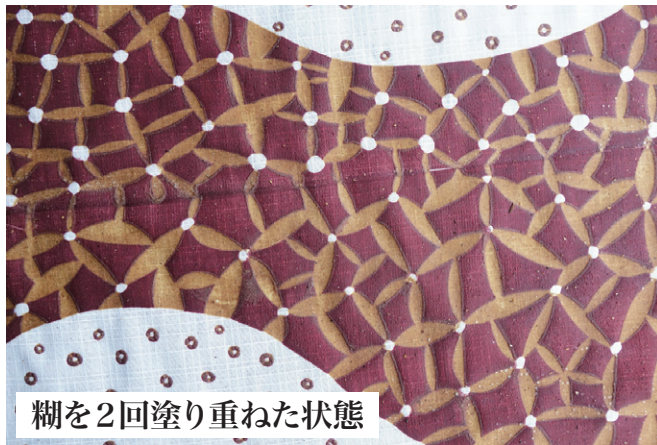


型紙2で塗った糊

そして最初の型紙で糊を塗り、次に同じ位置で、2枚めの型紙で糊を塗ります。



また、型紙2種類の組み合わせ方を工夫し、そのうち片方を使つて模様を表現したり、片面だけ糊を塗るのを1回にして、



糊を2回塗り重ねた状態

長板は一反の布を一度に張ることもできるので、布の張替えが最小限で済みます。そのため作業の効率が格段に上がるのです。



藍の濃淡を出したりなど、様々なパターンを生み出せることも「追っかけ」という型染の魅力の一つのようです。

講談師のお話を聞いた時思いましたが、人の行う「表現」を知ることが、たいへん勉強になります。

編集後記



なかなか記事にする内容が集まらず、前号から少しご無沙汰してしまいました。新年の行事が立て続き、やっと今年の第一号が出来上がりました。本年も、よろしくお願いいたします。(桂)